



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Diversity of Industrialization in Africa : Transformation of Employment and Emergence of Telecommunication (1960-2021) [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	CHABI, NICOLE MONTCEBOLATAN
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(経済学)
Dissertation Number	甲第16198号
Issue Date	2024-12-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/93959
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	MONTCEBOLATAN_CHABI_review.pdf, 審査の要旨



様式 9

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（経済学） 氏名：Chabi, Montchebolatan
Nicole

	主査	教授	松村	史穂
審査委員	副査	准教授	樋渡	雅人（東京大学）
	副査	准教授	高井	哲彦

学位論文題名

Diversity of Industrialization in Africa:
Transformation of Employment and Emergence of Telecommunication (1960-
2021)
(アフリカにおける工業化の多様性：雇用の変革と通信の出現(1960-2021 年))

Chabi 氏の学位論文は、アフリカにおける工業化の独自性を、工業化における雇用構造の多様性や新産業としての通信の出現に焦点を当てて、実証的に論じたものである。本論文は、査読誌に公開された 1 編を含む 5 章構成からなる。各章の構成は以下の通りである。

第 1 章では、工業化についての視点から先行研究を再構成している。第 1 次・第 2 次産業革命に対し、第 3 次・第 4 次産業革命については学問的合意が必ずしも存在していないこと、工業化についての議論は先進国中心でアフリカの視点が欠けていること、アフリカ工業化は製造業主導論と ITC 主導論の両論があることが論じられる。

第 2 章では、1960-2021 年のアフリカ 54 ヶ国における産業構造の高度化について検討している。先進国では第 1 次産業、第 2 次産業、第 3 次産業の順に雇用構造が高度化する「ペティ=クラークの法則」が知られるが、アフリカ 54 ヶ国では工業化国、脱工業化国、緩慢工業化国、非工業化国の 4 類型が示される。第 2 次産業が未成熟なまま第 3 次産業が成長する現象が指摘され、製造業の構造を考察する必要性を強調している。

第 3 章では製造業主導論の検証として、1960-2021 年のアフリカ工業国における製造業の構造変化を考察している。前章のアフリカ工業国を代表する 9 ヶ国について、国際連合工業開発機関のセクター別雇用者データを用い、国際標準産業分類の

製造業 88 セクターの長期推移を分析した。88 セクターを食品中心の非耐久財, 繊維中心の非耐久財, 鉱物加工の生産財, 機械等の耐久財に分類すると, 食品産業から繊維産業または鉱物加工業, そして機械業等に拡大する工業化国と, その途中で足踏みする緩慢工業化国・脱工業化国が観察された。両者の分岐点として, 資源加工型工業化の政策と時期が鍵であること, 農作物と天然資源が工業化に対して正負両面の影響を持つことが示された。

第 4 章では ITC 主導論の検証として, 1960-2021 年のアフリカにおける経済と ITC の関係を分析している。54 ケ国の 1 人あたり GDP と ITC の相関性は一般的には低い。が, エジプト等の中所得国の相関性が高い一方, セネガル・ケニア・ベナン等の低所得国の相関性は低く, 固定電話加入率が低いまま携帯電話加入率が増えるリープフロッグ現象が観察される。携帯電話加入率は急増するがインターネット利用率が低迷する現象は, 第 2 世代携帯 GSM が携帯普及の適性技術であることを示す。普及背景に海底ケーブル契約を持つ多国籍企業の参入と通信民営化がある。

第 5 章では, 工業化が緩慢な低所得国ながら携帯電話普及率 100%前後のベナンを事例に, 2000-2021 年の郵便通信規制庁年報等を元に携帯電話産業の競争と発展を分析する。通信の民営化後に 5 社が林立したものの, SMS の第 2 世代携帯からインターネットの第 3 世代携帯への飛躍にあたり技術投資と海底ケーブル契約により, 南アフリカ系の MTN とモロッコ系の Moov が勝ち抜いたことが示された。

結論では, 前章までの成果を総合し, 本研究の研究成果とその意義について包括的に議論している。

令和 6 年 11 月 7 日に, 本学経済学研究院の松村史穂, 高井哲彦, 及び東京大学大学院総合文化研究科の樋渡雅人による審査委員会を開催した。審査委員会の評価は以下の通りである。

当論文は, アフリカ諸国の工業化の多様性を実証的に検証することで新しい事実発見を示した。特に資源加工型工業化の差異と時期の意義を発見した点に独自性がある。加えて, 携帯電話普及の背景に GSM という適性技術と投資競争があったことを示したことは, 史料・史実として学術的意義が認められる。また, 先進国中心の従来の工業化論や産業高度化論に対し, アフリカを題材に新しい経済史像を提示したことにも学問的な将来性がある。

他方, 当論文は, いくつかの改善の余地を残している。審査委員会では, 工業化の停滞は途上国共通の課題であるためアフリカに対する政策提言には具体性を欠く点, 経済成長における製造業・ITC の役割についてより詳細な考察が望まれる点など指摘された。ただし, これらは今後の課題として検討されるべき点であり, 本論文の価値を損なうものではない。

以上をふまえ、当審査委員会は、Chabi 氏により提出された学位請求論文について、当論文がアフリカにおける工業化の多様性を産業構造の転換を軸に実証的に検証した一定水準を満たす研究成果であると評価し、全会一致をもって、博士（経済学）の学位を授与されるにふさわしいと判断した。